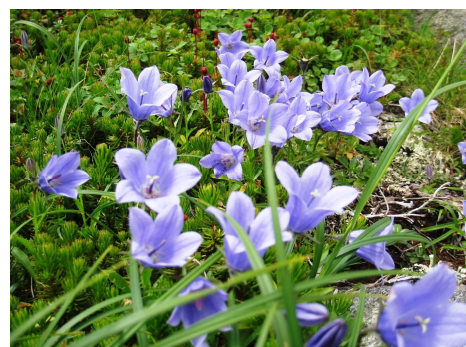




2024.  No. 100

- ・北海道森林管理局における森林・林業の普及（技術普及課）
- ・先進的林業機械による低コスト化と軽労化に向けて（根釧西部森林管理署）
- ・こんにちは森林官です！（苫小牧森林事務所）
- ・広報ワーキングチームが優良職員表彰
- ・林野火災対応へのお礼（置戸町内国有林）



林野庁



北海道森林管理局

北海道森林管理局における森林・林業の普及

北海道森林管理局では、森林に親しむための「緑の普及」、試験研究機関と連携した「林業技術の普及」、民有林を支援する人材育成を通じた「林業知識の普及」などに取り組んでいます。

森林整備部技術普及課

森林に親しむための「緑の普及」

北海道森林管理局 1 階には、北海道産の木材をふんだんに使用した「ウッディホール」があり、森林・林業に関する情報発信や木材利用推進PRの拠点として、一般開放しています。木のプールやままごとハウスなどで遊べる木育コーナー、北海道の樹木紹介コーナー、図書コーナー、プロ野球選手のレプリカバット展示コーナーなどを設置し、大人から子供までくつろげる【木の空間】を提供しています。



ウッディホールでは、北海道森林管理局単独や関係機関と連携した木育イベントとして、「木のコースター」、「もくねんさん（おがくず粘土）」など木材を利用したワークショップも行っています。

また、森林や自然を身近に感じてもらえるよう、昨年度からVRゴーグルを用いた森林散策体験を始めました。このような取組を通じて、子供たちをはじめ、より多くの方々への森林・林業の普及啓発活動を行っています。

北海道森林管理局では、今年度、以下のウッディホール企画展、イベントの出版を予定しています。

《ウッディホール企画展》

日程	企画展タイトル
令和 6 年 9 月	市町村が取り組む森林・林業 PR（平取町）
令和 6 年 10 月	木材利用促進月間等
令和 6 年 12 月	北大連携協定関連パネル展
令和 7 年 2 月	知床世界遺産パネル展

《イベント出版》

日程	イベント名（場所）
令和 6 年 7 月 19 日	カルチャーナイト（北海道森林管理局）
令和 6 年 8 月 6 日	夏休み子ども体験デー（札幌第一合同庁舎）
令和 6 年 10 月	道民森づくりの集い（サッポロさとらんど）
令和 6 年 12 月	木育ひろばinチ・カ・ホ（札幌市地下歩行空間広場）

具体的な日程や内容は、[北海道森林管理局 HP](#) でお知らせしています。ご確認ください。

試験研究機関と連携した「林業技術の普及」

(1) クマイザサ一斉開花の調査

一昨年あたりから道内各地においてクマイザサの一斉開花がみられます。今年3月には、「昨夏の道内、ササ一斉開花」の見出しで、新聞にも掲載され話題となりました。

北海道森林管理局では、森林総合研究所北海道支所と連携しながら、どの地域においてクマイザサが一斉に開花しているのか調査しています。

道内各地の森林管理署等と連携して情報収集を進めるとともに、開花マップの作成にも取り組んでいます。

ササ類の開花周期は60～120年と言われており、道内では1970年代にチシマザサが一斉開花した記録は残っていますが、道内のササ類の約半分を占めるクマイザサが大規模に一斉開花したという記録は近年ではありません。

昨年までの情報からは、「北海道ササ分布図(1984.01豊岡洪・佐藤明・石塚森吉)」に示されるクマイザサ分布区域のうち、道北地方の中南部、道南地方の東部において、一斉開花していることが分かりました。

また、まだ一斉開花していないクマイザサについても、今年以降に一斉開花する可能性もあるとのことです。

昔の人は、ササの実を食していたという記録も古文書や古い新聞記事に残っています(ササはイネ科の植物なので、お米に似ているのかもしれませんが)。また、ササの実には野ネズミなどの森の動物たちの餌にもなるようなので、その影響も懸念されます。

また、ササ類は、開花すると枯死することが知られており、大面積でクマイザサが枯れている現状から、ササの葉を食料とするエゾシカへの影響や食糧不足となったエゾシカによる樹木への被害等の影響、ササが消失することによる林床の動植物への影響など、いろいろなことが想像されます。このため、今後も森林総合研究所北海道支所など関係機関と協力して、各種調査や開花マップの完成に取り組んでいきます。



クマイザサの花穂(垂れ下がっているもの)



一斉に開花している様子



たわわに実ったクマイザサの実

（２）着花（果）調査

「採種園」は、植林するときに使う苗木を作るための種子を採取する森林です。花（球果）の着き具合は年によって大きく異なり、たくさん着ける年もあれば全く着けない年もあります。

北海道内にはトドマツ、カラマツ（グイマツ）、アカエゾマツの採種園がありますが、北海道森林管理局では、種子を採取する前の花（球果）の着き具合について、林木育種センター北海道育種場と協力して調査を行っています。これを「着花（果）調査」と言います。

調査方法は、今年着いた花（球果）を双眼鏡で確認し、定められた判定基準に基づき判断するという非常に地味な作業です。

花（球果）の着き具合によって採取できる種子の量も変わってくることから、非常に重要な調査ではあります。

たくさん花（球果）が着いている年は、笑顔で調査をしているのですが、全く着いていない年はどんよりして次第に会話も少なくなるという、年によって調査へのモチベーションが大きく変わる調査です。



着花（果）調査の様子

近年、双眼鏡のほか、ドローンを使用して樹上から花（球果）の着き具合を調べる試行にも取り組んでいます。昨年は、稀にみる大凶作の年でしたが、これまでの調査結果では、凶作の翌年は豊作になることが知られており、今年の調査では、豊作が期待され楽しみな年になりそうです。



トドマツの球果（灰色の上向きなもの）



カラマツの球果（緑色は今年の球果、茶色は昨年の球果）



ドローンでトドマツを撮影（白っぽく点々と見えるのが球果）

「本ページの写真提供」

森林総合研究所 林木育種センター

人材育成を通じた「林業知識の普及」

北海道森林管理局では研修等を通じて、若手から中堅にかけて段階的な人材育成を図ることで、職員の資質向上と森林総合監理士の登録促進に向けた取組を推進しています。

（１）民有林支援・連携推進研修

森林管理署等の若手や中堅職員を対象に、民有林支援の取組の重要性や必要性について理解を深め、支援・連携等に必要な基礎的知識の習得と普及を目的とした研修です。

本研修ではグループワークを取り入れており、研修生自身が、今後どのように民有林と関わりを持ち支援・連携していくべきか班員同士で考え、意見を共有し、その内容をプレゼンするカリキュラムとなっています。

このことにより、研修生の民有林支援・連携に係る意欲の醸成を図り、将来的に森林総合監理士（※１）を目指す人材確保に取り組んでいます。



（グループワークの様子）

（２）森林総合監理士育成研修

森林総合監理士には森林づくりに関する科学的な知見や、木材の生産から利用までの基本的な知識に加えて、これらを地域の振興に結び付けていく構想力や合意形成に必要なプレゼンテーション能力が求められます。

本研修では、この「技術力・構想力・合意形成能力」等の実践的な能力を、「森づくり構想演習」、「資源循環利用構想演習」の２つの演習を通じて養うとともに、森林総合監理士としての役割の理解と意欲の醸成につなげていくことを目的に実施しています。



（構想プレゼンの様子）

（３）森林総合監理研修

森林管理署等の林業普及指導員資格試験（※２）受験資格取得者を対象に、森林総合監理士等と連携した業務を行うために必要な林業知識や知識の研鑽を深め、森林総合監理士等の登録推進を目的とした研修です。

そのため、本研修では民有林支援に必要な知識のほか、「林業普及指導員資格試験（区分：地域森林総合監理）」の受験対策を行っています。

（４）将来に向けて

各地域で抱えている課題は様々であることから、その多様な地域課題の解決に向けた取組を推進していくため、引き続き研修等を通じて国有林の森林総合監理士等の人材育成に取り組みます。

将来、これらの研修を受講した森林総合監理士等が、各地域において森林・林業の課題解決に向けた検討を中心となって進め、具体的な対策に結び付けていくことを期待しています。

用語解説

※１「森林総合監理士」

森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村、地域の林業関係者等への技術的支援を的確に実施する者として、林業普及指導員資格試験の地域森林総合監理区分に合格した者を登録するものです。

※２「林業普及指導員資格試験」

農林水産大臣が行う国家試験です。「林業一般」と「地域森林総合監理」の２つに区分されており、それぞれで受験資格が異なります。

地域課題の解決に向けた取組

先進的林業機械による低コスト化と軽労化に向けて

根釧西部森林管理署

【はじめに】

根釧西部森林管理署は、釧路総合振興局管内の中央に位置し、釧路湿原の上流域及びラムサール条約において登録された別寒辺牛^{べかんべうし}湿原を含むパイロットフォレスト等がある釧路地区、阿寒富士を源として太平洋へ注ぐ庶路川・茶路川流域に面する白糠地区、阿寒湖・雄阿寒岳等阿寒摩周国立公園の中心部及び阿寒川流域に面する阿寒地区、阿寒山系から屈斜路外輪山をとおり摩周岳にかけての山岳林及び釧路川上流部に面する弟子屈地区の4地区により構成された8市町村に広がる約18.2万ha国有林の管理経営を担っています。

【地域の課題】

主伐期を迎える人工林の増加が見込まれる中、それに伴う再造林や人工林等の森林調査が増加しており、造林作業における担い手不足や調査を行う人員が不足し、作業の遅れが懸念されるなど、地域では継続的な課題となっています。

【課題解決に向けた目標】

課題解決に向け、一つ目は造林作業における機械化などによる軽労化、二つ目は精度を落とさずに森林調査を省力化できる方法の確立を目標としました。

【課題解決に向けた取組】

目標達成に向け、造林作業では、伐採と造林との一貫作業やコンテナ苗の使用のほか、大型機械地拵での根茎除去による下刈回数の削減などの省力化、また、軽労化を目的に導入したリモコン式草刈機の実用性とその仕様に応じた活用方法の検証を進めるとともに、森林調査では、地上型3D

レーザの活用により、調査の省力化を試行し、機器の精度や実用性について検証しています。



【今後に向けて】

再造林については、更なる低コスト化・軽労化を進めるため、下刈回数の削減や各種機械による下刈作業を想定した地拵や植栽の仕様を検証するほか、関係機関と連携した各種勉強会等で実用性等について意見交換する中で、普及に向けた取組みも進めます。

林業の担い手不足が深刻化する中、このような取組みが、林業現場での軽労化に繋がるよう日々研鑽していきたいと考えています。

こんにちは 森林官です！

胆振東部森林管理署 苫小牧森林事務所
森林官 佐藤 周平



【地域の紹介】

苫小牧森林事務所は北海道中南部の胆振地域にある苫小牧市に所在しています。

苫小牧市は人口約 17 万人と道内で 4 番目に大きな街ではありますが、東にはラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖が、西には登山で人気の樽前山もあり自然豊かな地域でもあります。

【苫小牧市の国有林について】

私の担当している苫小牧担当区は、活火山である樽前山の山麓に位置しています。過去に何度も起こった噴火によって火山灰が降り積もり、沢や谷が埋められたことで形成された平坦地が広がる特徴的な地形を有しています。担当区内にはひたすらと真っすぐな林道が縦断していて、初めて通った時はとても驚きました。



中央右寄りから真っすぐ奥に伸びているのが第一縦断林道
一番左奥に見えるのが樽前山です。

また、主に火山灰からできている土壌は栄養に乏しく、火山礫やその下にシルト層という固い土の層があり、樹木は深く根を伸ばすことができないため、強風により樹木が倒れる「風倒被害」の多い地域でもあります。過去の台風により何度も風倒被害を受けており、今でも至るところに復旧後の造林地を見ることができます。



風倒被害地の様子。幹から折れることは少なく
根元から倒れてしまうことがほとんどです。

【最後に】

苫小牧担当区は風倒被害が多い一方で、林床にササが少ないため、苗木を植えなくても自然に落下した種子等が発芽・生育する「天然更新」が旺盛な地域でもあります。



風倒被害跡地に天然更新したトドマツ

また、地形が平坦なため、森林の伐採や植付け・下刈り等の保育作業を効率的に行う面でも有利な点が多く、様々な可能性を秘めた、面白味のある地域だと感じています。

今後は、風倒被害地の回復はもちろんのこと、天然更新など土地の持っている力を活かした森林づくりについても試行錯誤していきたいと思っています。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

第36回イチャルパ (先祖供養)とアイ ヌ文化交流会開催



【日高南部森林管理署】

6月9日に、新ひだか町の真歌地区「チセ」において、特定非営利活動法人新ひだかアイヌ協会の第36回イチャルパ(先祖供養)が挙行され、日高南部森林管理署からも参列いたしました。イチャルパはチセ内において、まずは先祖の御霊のための黙とうから始まり、主催者等挨拶と続き、カムイノミ(新酒を神に捧げ、始めを告げる儀式)、ヌサオンカミ(ヌサ「祭壇」前で礼拝)、イチャルパ、カムイノミの行程で実施しました。



令和6年度暑寒別岳 安全祈願祭に出席



【留萌南部森林管理署】

6月22日に、増毛町の暑寒荘広場において、令和6年度暑寒別岳開山式及び安全祈願祭が行われ、留萌南部森林管理署からは署長外3名が参列しました。当日は、雨の予報でしたが、式典が開催される頃は雨が降らず、増毛町長、増毛町観光協会会長をはじめ多くの関係者が参列し、無事に式典が開催されました。式では神主(かんぬし)祝詞(のりと)・玉串(たまぐし)奉奠(ほうてん)が執り行われ、参列者は山の安全を祈願しました。



広報ワーキングチームが優良職員表彰



【北海道森林管理局】

「広報ワーキングチーム」が林野庁長官より優良職員として表彰され、6月17日に表彰状が伝達されました。このチームは、令和4年度より若手有志職員を中心として活動しており、これまでに、「日本のお山森アゲ隊」、「ショート動画隊」として様々な動画を作成するほか、学校の授業で活用できる資料やマニュアル作りを行うなど、情報発信に取り組んできました。今回の表彰は、外部の方々の心に響く活動が評価されたものです。



林野火災対応へのお礼(置戸町内国有林)



【北海道森林管理局】

7月3日に置戸町の国有林(1.07ha)で発生した林野火災では、北海道庁、置戸町役場、自衛隊、消防、警察、北海道開発局をはじめ多数の機関の迅速な対応により、7月9日に無事鎮火しました。その後、鎮火状態の継続を確認し、7月13日に現地の災害対策本部が廃止され対応が終了しました。現地は足場が悪く、真夏のような暑さの中、11日間、延べ400人以上の皆様にご対応いただきました。ご尽力いただきました皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



広報 「北の森林 国有林」7月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の花 イワギキョウ】

今月はイワギキョウの写真を表紙右下に掲載しました。花言葉は「誠実」「感謝」です。大雪山などに生えていますが、とても鮮やかなスカイブルーです。



今月の表紙